令和６年度(2024年度)　第１回　函館市地域学校協働活動連絡会議　会議録

日　時	令和６年７月１日（月）　１０：００～１２：００
場　所	南北海道教育センター　大会議室
参加者	工藤委員，梅田委員，京谷委員，酒井委員，神田委員，髙田委員，吉村委員，阿久津委員，中村（和）委員，田中（慎）委員，田中（真）委員，間委員，郷六委員，松浪委員（１４名）
事務局	金野教育政策推進室長，小棚木学校再編・地域連携課長，田口主査，石川主任主事（４名）
傍　聴	なし

１　開　会

（事務局）

本日はご多用の中，お集まりいただきありがとうございます。定刻となりましたので，ただいまから，令和６年度(2024 年度)第１回函館市地域学校協働活動連絡会議を開会いたします。

本会議につきましては，函館市情報公開条例第２６条の規定に基づき原則公開となります。本日の議事等につきましては，非公開となる内容がないと考えられますので，全ての会議が公開となりますがよろしいでしょうか。

－異議なし－

会議終了後には，発言要旨を取りまとめた会議録を作成し，公表することとなっておりますので，ご承知おきください。会議録につきましては，後日，出席された委員全員に確認していただく予定でおります。続きまして，今年度より新たに活動していただいている地域コーディネーターもおりますことから，皆様からもご挨拶をお願いしたいと思います。

－各委員挨拶－

令和６年度につきましては，資料１の名簿に記載のとおり，３０校・１園計２１名の地域コーディネーターの皆様にご活動いただくとともに，本会議の委員としてご参加いただきます。どうぞ，よろしくお願いいたします。

２　座長の選出

（事務局）

続きまして，次第２「座長の選出」に入ります。要綱第５条第２項の規定により

まして，座長を委員の互選により定めることとなっております。

それでは座長の選出につきまして，委員の皆様にお諮りいたしますが，いかがいたしましょうか。よろしければ，事務局から提案させていただきたいと考えますが，よろしいでしょうか。

－異議なし－

異議がないようなので，事務局から提案させていただきます。座長につきましては，青柳中学校・青柳小学校・弥生小学校・あさひ小学校の地域コーディネーターであります工藤委員にお願いしたいと考えておりますが，いかがでしょうか。

－拍手－

ご承認いただきありがとうございます。それでは，工藤座長から，一言，ごあいさつをお願いします。

（工藤座長）

皆さま，こんにちは。ただいま座長に選出されました工藤でございます。令和４年度より，青柳中学校・弥生小学校・青柳小学校・あさひ小学校で地域コーディネーターを務めております。令和４年度から，教育指導監として青柳ネットで地域コーディネーターを務めていく中で，４校校長が集まっての研修会や学校運営協議会で熟議を重ねていき，改めて，地域と子どもたちとのつながりを深めていくことは，子どもたちの豊かな心の育成や地域の安全安心のためには欠かせないことであると感じております。その中で，地域コーディネーターの皆様が担ってくださっている学校と地域のパイプ役という存在は，今後，学校にとっても地域にとってもより重要な役割となるものと考えております。本日は，お互いの活動や意見を共有することで，自分の地域のみならず，函館市全体で子どもたちを守り，豊かな心を育むきっかけとなるような有意義な会としていければと思いますので，どうぞよろしくお願いいたします。

なお，要綱第５条第４項では，座長に事故等がある場合は，あらかじめ座長の指名する委員がその職務を代行するとしております。座長職務代理者につきましては，酒井委員にお願いしたいと考えております。

（酒井委員了承）

どうぞよろしくお願いいたします。

３　趣旨説明

（事務局）
　それでは，次第３「趣旨説明」に入ります。私からは，「地域コーディネーターの役割と重要性について」ご説明いたします。
　（※　資料に沿って説明）

４　今後の方向性等に係る検討

（事務局）
　それでは，次第４「今後の方向性等に係る検討」に移ります。ここからの会議の進行は，工藤座長にお願いします。

（工藤座長）
　工藤でございます。よろしくお願いします。今後の方向性の検討として，事例発表に入る前に，まずは事務局から説明を行います。ここからの司会・進行につきましては，事務局にお願いします。

（事務局）
　では，事務局の方で進めさせていただきます。令和５年度に新規で配置された地域コーディネーターの方に，取組事例を発表していただきますが，本日出席されている方が髙田委員，欠席で資料提供された方が，齊藤委員と梶原委員となります。
欠席された委員の事例発表については，後ほど担当の石川から代わりに説明させていただきます。最初に，戸井学園・戸井幼稚園　髙田委員から，発表願います。

（髙田委員）
　令和５年度戸井学園，戸井幼稚園の活動について報告させていただきます。まずは私の担当する学校等の概要について説明させていただきます。戸井幼稚園については５歳児２名，４歳児３名，３歳児２名，全園児７名ということで小規模な幼稚園となっております。また，戸井学園については，小学生から中学生まで小中一貫の学校になっていまして，ジュニアクラスというのが通常でいう１年生から４年生になっていまして２８名，ミドルクラスというのが５年生から７年生２２名，シニアクラスについては８年生９年生で１３名，全校で６３名の学校となっております。
　ここからは私の取組について報告したいと思います。私は昨年度から地域コーディネーターをやらせていただいておりますが，第１回目の学校運営協議会で戸井幼稚園から，園児の使用している大きな積木が古くなって木の表面がささくれている状態で，これまで職員で色々とメンテナンスをしてきたが，職員に若年層がいなく対応が困難になってきているということで，ヤスリがけや塗装など色々協力してもらいたいとの相談がありました。協力してもらうにしても，どうすればいいか分からないというこ

とで，町会への声がけやボランティアへの声がけと日程の調整をさせていただきました。また，地域コーディネーターの活動予算でヤスリや塗料を購入しました。ヤスリがけについては積木の数が多くて，手作業では大変だったので戸井学園の技術室の工具を借りることで調整しました。実際に，積木はささくれがあったりとかなりボロボロな状態だったので，小安町会・釜谷町会・汐首町会が協力して一生懸命ヤスリがけとペンキ塗りをしてくださって，写真のとおり子どもたちがすごく喜んでいました。

次に，戸井学園の取組として，夏休みの２日間と冬休みの２日間を利用して福祉教育をして欲しいという相談があったので，１つ目に５・６年生には認知症サポーター養成講座や車椅子の取扱いなど，２つ目にノーマリー教室，３つ目に多世代交流，４つ目に栄養から地域福祉を学ぶという４つの提案をし，調整させてもらいました。

この写真は，認知症サポーター養成講座を実施した時のものですが，座学だけではなくてロールプレイを交えて，高齢者の気持ちや対応者の気持ちについて考える機会をつくりました。あとは，用意したシナリオをもとに，自分ならどのように声がけをするかなども生徒に考えてもらって，実際に自分たちで作ったシナリオを使って演じてもらうような形で取組をさせていただきました。シナリオづくりだけでも高齢者や対応者の気持ちをすごく感じ取ってもらえたかなと思っています。

認知症サポーター養成講座の後に，車椅子の取扱いをやらせてもらったのですが，高齢者役として地域の高齢者にボランティアとして参加していただいて，車椅子については福祉用具の事業者に協力していただきました。学校にも車椅子を設置していますが，取扱いについて指導する機会が無いということでしたので，学校の先生方に実際に体験していただきました。

３つ目に，ノーマリー教室ということで，昨年度は介護ロボット体験をさせていただきました。ノーマリー教室に関しては，函館市の社会福祉協議会で実施していまして，そのメニューを活用して今回調整させていただきました。マルベリーさわやかセンター函館に協力していただきまして，介護ロボットについての説明とか体験・対応をしていただきました。寝返りをサポートするマットや，腰を痛めないように介助をサポートするスーツなどを実際に身につけて体験していただきました。子ども達はこのような体験がすごく楽しいようで，積極的に参加していました。写真にある電動の車椅子，目で字を打つようなものや高齢者が一人暮らしで寂しい時に動くロボットなど，色々と持ってきてもらって体験させていただきました。

次に，多世代交流による餅つき体験を実施しました。多世代交流を通して豊富な知識とか技術を持つ高齢者世代から子どもたちが学んで，成長するきっかけとなりました。ヘルスボランティアが餅つきの準備やあんこ餅の作り方などを教えてくれて，子どもたちは初めての体験ですごく楽しそうで，それを見たボランティアの方々も子どもたちと関われたことで逆に元気をもらえたようです。それでは，その時の映像をご覧ください。

（映像を見ながら説明）
　はっぴは地域のボランティアの方が寄付してくれました。今年度も同じような形で進めていきたいなと思っています。
（２つ目の映像を見ながら説明）
　これは餅つき後に，子どもたちに試食してもらったところです。
　最後に，栄養から地域福祉を学ぶということで，函館の管理栄養士会の先生に高齢者の栄養から地域の特性，地域の特産品である昆布の話も交えて講話をしていただいて，自分たちの栄養についても考える機会を作りました。講話の後，後半は効率よく栄養を取る方法を実際に先ほど餅つきで作った餅を調理して試食するという体験をさせていただきました。子どもたちは，食べるのをすごく楽しんでいて，毎回来たいと言って喜んでいました。
　令和６年度については，令和５年度に実施したノーマリー教室が無料ではできないということで，今検討しているところです。地元に介護施設があるので協力していただいて，介護体験などもやっていきたいなと考えております。以上です。

（事務局）
　ありがとうございました。では，質疑応答に入らせていただきます。質問やご意見などありましたら，挙手をお願いします。
－質疑なし－
（事務局）
　今回の活動発表につきましては，参加できない方が多かったことから，令和５年度新規で配置された地域コーディネーターに限らず，ご協力を呼びかけさせていただき，本通中学校を新規でご担当した神田委員，新たな取組を展開している京谷委員，そして，３月まで亀田中学校で校長として勤務しておりました吉田指導監からも学校からの視点で，活動について発表をいただくこととなりました。皆さま，ご協力，ありがとうございます。

（事務局）
　それでは，引き続き活動発表を行います。本通中学校　神田委員お願いします。

（神田委員）
　本通中学校の地域コーディネーターをしております神田でございます。これより函館市立本通中学校コミュニティ・スクールの実践報告をさせていただきます。「函館市立本通中学校地域とともにある学校づくり」現在本通中学校の生徒数は，第１学年から第３学年で男子２２５名，女子２６３名，合計５１８名の函館市内で規模の大きな中学校になります。昨年度本通中学校の地域コーディネーターとして委嘱され，ま

ずはじめに行ったのが，校区内でメインとして連携をとる町会を決めることでした。管理職と話し合い，本通町会，本通中央町会，鍛治町会の３町会をメインとして連携を図ることといたしました。令和５年度はお試し期間とし，まずは出来そうなことから始めることになりました。地域ボランティア清掃，文化祭の時，市民会館に行く途中の見守り活動，家庭科などの学習活動の補助を主幹教諭と話し合いながら，教頭先生と相談をして実施していくこととなりました。

まずは地域ボランティア清掃です。本中地域ボランティア清掃とは，本通中学校の生徒会が中心となって，本中生全体に清掃ボランティアを募集し，日頃からお世話になっている地域のゴミ拾いをするなどお掃除をするボランティア活動です。令和４年度までの本中ボランティア清掃は，本通中学校の生徒だけで行われていました。そこでこの取組を活用し，令和５年度は連携町会や学校運営協議会に参加協力の依頼をすることを地域コーディネーターとして管理職に提案させていただきました。結果，依頼を出すことに決定されましたので，令和５年度の本中ボランティア清掃は本通，本通中央，鍛治の３町会と学校運営協議会が本中生とともに実施いたしました。地域ボランティア清掃に協力してくださる地域のみなさんと地域の方に挨拶している本中生の様子です。こちらは中学校の周りを各班に分かれて清掃活動をしている本中生と地域ボランティアのみなさんの様子です。

続きまして，文化祭の時，市民会館に行く途中の見守り活動についてご報告いたします。文化祭の時の見守り活動とは，通学路ではない市民会館に行く途中の車通りが多い交差点や歩道での見守り活動になります。令和４年度までの文化祭の見守り活動は，教職員だけで実施していました。そこでその結果，市民会館で待機をする教職員の数が足りない状況にありました。このことから主幹教諭より，この見守り活動をＣＳの取組として実施したいとご相談いただきましたので，教頭先生，主幹教諭と見守りの内容や必要な希望人数を確認し，コーディネーターとしてご協力いただく地域を本通町会に決め，管理職にご提案させていただきました。このことから，令和５年度文化祭見守り活動は，教職員と本通町会役員のみなさん，そして本通中学校ＰＴＡの協働で実施いたしました。当日の様子です。こちらは市民会館近くの歩道を歩いている本中生と見守りをしてくださっている本通町会役員の方です。こちらは深堀中学校前の交差点を渡る本中生とそれを見守っている本通町会役員の方です。

続きまして，学習支援活動になります。本中学習支援活動とは，家庭科などの実習補助や校外学習支援，また，体育大会などサポーターとして活躍しています。この時，地域コーディネーターとしてサポートの依頼を主幹教諭からいただき，後日依頼を出した担当教諭，そして主幹教諭と地域コーディネーターで打ち合わせをします。その時に学習補助の方法を確認した上で，ボランティアの確保や当日のボランティアと担当教諭のつなぎ役として活動しています。まずは地域学習です。１年生が西部地区で実施している校外学習になります。こちらは校外学習に出発する前の１年生に学年主

任からボランティアの方を紹介していただいている様子です。こちらは旧函館区公会堂の前で班ごとに写真を撮っているボランティアの様子です。班ごとの写真を撮ることで，予定通りに各班が旧函館区公会堂を通過しているかを確認する役目も果たしています。

続きまして，家庭科実習補助になります。ミシン実習のサポートの様子です。こちらは生徒と談笑しながらサポートをしているボランティアの様子です。そしてこちらはミシンがけのサポートに入っているボランティアと真剣に取り組んでいる生徒の様子になります。こちらは和やかな雰囲気の中でサポートをしているボランティアと生徒の様子です。そしてこちらはミシンの下糸が絡まってしまったのをほどいているボランティアの様子です。次に家庭科実習補助の調理実習サポートの様子になります。こちらは調理実習に必要な包丁やゴム手袋を配っているボランティアの様子です。そしてこちらはハンバーグの焼き加減を覗き込む生徒とボランティアの様子です。調理の手順をプリントで確認している生徒とボランティアの様子です。こちらは真剣に玉ねぎを炒めている生徒とそれを見守るボランティアの様子になります。

また，この他にも，地域コーディネーターとして，２年生のキャリア教育実施に向けての公的機関や事業所，民間企業や個人店などへの問い合わせ作業補助や，そして各関係町会や協力事業所への訪問をしています。

令和６年度本通中学校ＣＳの取組についてです。令和６年度の取組は令和５年度に実施した取組の実績をベースにし，更に新しい試みも取り入れたものになりました。新たな試みとして古着 de ワクチンプロジェクトの発足，地域サポーターの募集，保護者の地域サポーターへの参加協力の促進になります。こちらは地域サポーター募集のチラシになります。このチラシは本中の１年生から３年生までの保護者全員に配布しています。この取組のねらいとしては，登録していただくことの他に，本通中学校のＣＳ活動を保護者に広く周知するねらいがあります。また，連携している町会にも情報として提供し，まずは町会役員の皆さんにご理解いただき，役員の方から徐々に登録していただくことになっています。それでは体育大会サポートの実践報告です。こちらは写真係として活躍しているＰＴＡボランティアの皆さんです。主幹教諭からそれぞれの役割分担を受けて実施しています。古着 de ワクチンプロジェクトです。このプロジェクトは昨年南本通小学校で開催した取組を，令和６年度には地域で子どもを育てるという観点から，中核となる本通中学校を会場に開催することが望ましいと考え，実施することといたしました。そこで，古着 de ワクチンプロジェクト実行委員会を立ち上げることになり，管理職と相談をし，本通中学校学校運営協議会，南小協働活動推進委員会，本通町会，本通中央町会，鍛治町会，本通中学校，南本通小学校を古着 de ワクチンプロジェクト実行委員会委員とし，さらに企業，事業所，団体を協力関係者とし，プロジェクトを進めて行くことといたしました。こちらは昨年実施した古着 de ワクチンプロジェクトの宣伝チラシになります。このようなチラシ

を地域や校区内の小学校など，関係各所に配布する予定となっています。このような取組や活動を通して学校と地域が協力し，未来を担う子どもたちを温かく見守っていくことは，コミュニティ・スクールのねらいであり，同時に地域の活性化に繋がり，子どもたちの安心安全の確保にも繋がると考えております。以上です。

（事務局）

ありがとうございました。では，質疑応答に入らせていただきます。質問やご意見などありましたら，挙手をお願いします。

－質疑なし－

～休憩～

（事務局）

定刻となりましたので，会議を再開させていただきます。深堀中学校・駒場小学校・深堀小学校　京谷委員から，発表をお願いします。

（京谷委員）

深堀中学校・駒場小学校・深堀小学校を担当している京谷です。今日は発表の内容として，昨年度の取組，成果と課題，今年度の方向性の３点お話させていただきます。昨年度の取組の中で主に１１の事業についてご説明させていただきます。昨年度様々な取組を手掛けてみたのですが，色んな課題も見えたというところで，そこも後半共有させていただきたいと思います。

活動する中で大事にしたことが，子どもと保護者の視点の中で校区内の町会と広く関わりを持つということと，もう１つはコロナ禍でやはり子どもたちの成長や経験が小さいグループで完結していることが気になったので，中学校と小学校，深堀小学校と駒場小学校の子どもたちのように，学年や学校に関係なく関わる取組が多くなるような事業の組み立てをしました。

まず，清掃活動について，毎年実施している「全市一斉クリーングリーン作戦」に合わせて子どもたちに好きな町会のゴミ拾いへの参加を呼びかけました。１回目が４月なので，まだ子どもたちの友達関係が十分出来ていないことやボランティア経験が無いというところも配慮して，自分の住んでいる町会ではなくて友達同士で好きな町会に申し込みできるということで呼びかけました。

次に，深堀町にありますスマイルキッズクラブの「スマイル祭り」のお手伝いについてです。これも２年目になるんですけれども，スマイルキッズクラブを卒業した子どもたちが深堀中学校に多くいることもあって，手伝う中で，先生と久しぶりに会って「大きくなったね」とか「立派になったね」と声をかけてもらえると，すごく誇ら

しげな顔をしているのも見受けられたので，小さい時に関わってくれた人と再会する機会を持つというのも，自分の成長を確認するために効果的かなと思いました。保護者の手伝いがなかなか集まらないということもあって，中学生が運営に携わるようになったのですが，それが当たり前になってきていて，保護者からも頼りにされている場面も見られて頼もしいなと思って見ていました。

次に「深堀ひろば」という小学生への学習サポートについてです。これは長期休みの１日目に深堀小の子どもたちが町会館に集まって，中学生が勉強や夏休みの宿題を教えるというものです。町会館のある場所すら分からない子どもたちがとても多い状況の中で，あえて町会館をお借りして町会館で活動することで，子どもたちに地域を身近に感じて欲しいと思い，この場所にこだわっています。これも定例になってきているので，中学生が昔使っていた辞典や分度器などを持ってくるなど，自主的に準備をしてくれています。会場が小学校の目の前ということもあり，様子を見に来てくれる先生も増えてきていて，卒業生との良い交流の場にもなっているかなと思います。

同じく深堀ひろばの中で，ＳＤＧｓについて学ぶ取組もしてみました。地域に還元できることを深堀中の教頭先生と相談した結果，たまたま私の勤務先に廃材があったので，それを使ってベンチを作って地域の町会へ寄贈しました。地元のラジオにも取り上げてもらい，子どもたちのボランティアへのモチベーションが上がったかなと思っています。

他にもＳＤＧｓ関連で，湯浜町会と駒場小，深堀中と連携して海岸のゴミ拾いをしました。市の環境部の方から，ごみの分別について町会館でお話をしてもらった後に，目の前にある海岸にごみ拾いに行きました。これに参加した小学生が，学んだ内容を新聞にしてコンクールに応募したところ入賞したということがあり，このようなことも子どもたちへの刺激にもなってとても良かったかなと思います。

次は，東深堀町会が企画した高齢者の走らないミニ運動会の運営を中学生が行ったものです。多くのボランティアの申込みがあり，自分たちからやる仕事を見つけて運営に携わってくれていた姿を見た地域の方からは，中学生がいなかったら実践できなかったとの多くの感謝の声があげられていました。

次は，深駒町会での多世代で楽しめるような夏まつりの運営に深堀中・駒場小・深堀小の子どもたちが運営ボランティアとして参加してくれたものです。現場はすごくバタバタしたのですが，中学生が気を利かせて動いてくれていて，地域の方々から高く評価されていました。

次は，「ほりホリ市」といって，深堀町会で事前に集めておいた不用品を使って，深堀小学校の体育館でバザー形式で行ったものです。販売や対応など，子どもたちが積極的に参加してくれていました。

次は，深駒町会で実施した防災大運動会です。自衛隊員から指導いただきながら，地域の防災を考えたり，水消火器を使ったり，担架で運ぶスピードを競ったりといっ

た競技を通して，防災について学びながら行う運動会として，楽しく行われました。このときも，中学生がボランティアとして受付から準備まで色々な運営に携わってくれました。

今後については，深堀小学校の校区内の町会の方に協力してもらい，伝統文化継承の授業ということで，港おどりの講習会を行う予定です。ちょうど２年生と３年生が地域のお祭りと花火や戦没者について国語の教科書で学ぶので，港おどりと合わせて函館の歴史を学ぶといった内容で先生と調整しています。

その他，出前講座ということで認知症サポーター養成講座や車いす体験，高齢者疑似体験だとかノーマリー関係の授業をしたり，キャリア教育での体験先や講師の調整もさせていただいています。

成果と課題ということで，感じている成果が５つあります。１つ目は，自己肯定感の向上です。ボランティアの活動は様々な分野で様々な能力が求められます。色んな個性がある子どもたちが，学校以外の人と場所で活動することで，自分が持っている得意な場面を活かせるような経験が出来て，自己肯定感の向上への繋がりを感じた１年でした。

２つ目に，お祭りなどでの運営で，大人たちから直接感謝をされることが多くあったことです。学校では感謝されるような機会はあまりないけれど，地域に出た時に誰かに必要とされる存在なんだと感じられる体験は本当に大事だと思ったので，これからも色々な種類のボランティアの場を用意していきたいと思います。

３つ目に，コロナ禍で小さい集団で過ごしていくというのが数年間続いていたので，自分の見える視野の中に居る仲間だけではなくて，どんどん視野を広げていって，他の学校にはこんなお友達がいるんだとか，中学生に上がったらこういうお兄さんお姉さんがいるんだみたいな感じで，自分の目指す先輩のイメージを持ったりと縦や横の繋がりができ始めていることが成果として現れ始めてきたことです。

４つ目に，自分の住む町への愛着ということで，町会が抱えている課題に触れたり，考える機会になったり，実際に活動を通して地域の中で自分が生きていることを感じることが自分の住む町への愛着にも繋がっていると感じられたことです。

５つ目に，学校と地域が連携した事業をたくさんしていくことで，地域にとって学校が身近になれたことも成果だと思っています。

昨年度の成果としてはこの５つがありましたが，まだまだ不十分なところもあるので，目指すところとして，今年は去年の振り返りから，より多くの児童生徒がたくさんの経験を積めるというところで多様な企画を継続的に実施することを目指していきたいと思います。その中で，協働本部や地域関係機関との連携，各担当の先生との繋がりをつくっていくことに力を入れたいと思っています。ＰＴＡにもＣＳについてもっと知っていただきたいので役員会に参加させてもらって意見交換をしたり，また先生たちの負担にならないように，生徒会と連携して企画を考えたり発信していくと

いう仕組みをつくったりして，保護者や学校現場からのニーズを取り入れながら今年は展開出来ればと思っています。

今年も去年やった湯浜のゴミ拾いを４年生の総合学習の授業として行ったり，木に詳しい方に講師となってもらって樹木観察を行いました。講師の方も，ご自身の知識や経験を子どもたちに知って欲しいということで，サポートとして町会も協力して色々な準備をしてくれて，そこでも学校のために協力することでチームワークが出来ていたようで，来年以降も参加したいというようなお話も出てきていました。以上です。

（事務局）

ありがとうございました。続きまして，吉田指導監　お願いします。

（吉田指導監）

学校教育指導監の吉田と申します。よろしくお願いいたします。本日の資料は，今年３月１９日に福祉のまちづくりフォーラムで扱った資料なのですが，ここでも話しましたが，包括，町内会，小学校，中学校，未来大学の人たちが一緒になって街づくりをしていくというテーマでお話しさせていただきましたが，この活動も地域コーディネーターの皆さんと同じ方向性を持っています。学校だけを見ているとなかなか難しいのですが，街の中を見渡してみると，同じ方向を向いているグループが実は結構いて，色々とニーズがあるということをまずはお伝えしたいなと考えております。

それで，コミュニティ・スクールのおさらいですが，学校運営協議会委員は校長の方針を承認します，運営に対して意見を言えます，先生方の任用に関して意見も言えますというふうに，ものすごい力を持っています。非常勤ですが特別職の地方公務員という立場ですので，こういうふうにして学校を動かす力を持っているということをまず自覚しながら進めてほしいなと思っています。しかしながら，校長先生が言われる方針に対してだめだなんて，なかなか言えないですよね。それゆえに，課題は何なのかというところで本音を聞いて関わっていっていただきたいと思います。学校も昔からの伝統という感じで，良いところは PR したいですけど，困っているところを前面に押し出すというのは慣習的になかなかしにくいところもあるのかなと思うので，地域コーディネーターの立場として，実際に困っているところはどこなんだろうというのを，ちょっとした時に先生を見つけて聞き出すところから，ぜひ始めていただきたいなと思います。ただ，学校というのは個人情報の宝庫ですから，課題を共有するときには，しっかりと守秘義務を守りながらやっていただきたいなと思います。一番大事なのは，先ほど休憩時間にやっていたような，これはそうなの，あれはどうなのという会話だと思います。学校ごとに環境が違う中で，どう苦労して構築していっているのかという裏話を聞きたいのかなと思います。いずれにしても教育というのは未

来への投資ですので，そういった未来を安心・安全にとか，経済の活性化とか文化の継承とか重く考えがちですが，いわゆる共助のシステムをもう一回作っていきましょうというのが第一かなと思います。先ほどの発表にありましたけれども，こういうことをしたいけどお金がない，やる人を呼んできたけど場所がない，じゃあ学校を借りようというように，それぞれがもつもので補い合える，そういったシステムはいいなと思って聞いていました。先生方も困っていることがたくさんありますので，ぜひ皆さんの立場として突っ込んで聞いてみてください。亀田中学校は地域コーディネーターはいませんでしたけど，校長として何をやったかというと御用聞きをしたんです。町会や包括に行ったり，同じ学校運営協議会の北美原小，北昭和小，中央小の校長どうし集まって困っていることを話しませんかと言ったら，皆さん喜んで来てくれた。その中で耳にしたのが包括支援センターのケア会議で，亀中もちょっとそこに入っていきましょうということで少しずつ広げていった結果です。そして，北美原町のつながりプロジェクトということで，中学生をお客ではなくて，スタッフとすることで非常に喜ばれました。３年生でしたが，夏休みの工作などを率先してやってくれていました。全国学力調査にも，「困っている人がいたら助けたい」という回答は多いが，「地域の行事には参加していません」という結果となっている。子どもたちは地域と関わる機会が少ない。去年，花街道ボランティアを土曜日にやったんですが，土曜日なので勤務時間外となってしまうので，部活動としてお願いしたんですけれども，この時は，いまいち参加者が集まらなかった。今年は教頭から子どもたちに直接声をかけてみたら，２日間で８０人以上も集まりました。やっぱり子どもたちはボランティアをしたいんだなというふうな気持ちで見ていました。当然，ボランティアに参加した子たちの内申書にはきっちりと書くので，それが子どもたちの Win になるし，主催者の方は人手が増えて Win になる。そんなことを，たまたまうまい形でやってきたのが，亀田交流プラザボランティア活動で，亀田交流プラザの職員の CS 委員の方から，土日に活動できる中学生はいないかと相談があり，祭りで使うものを作ったりするお手伝いをしてもらいました。これだと引率もいらないので先生方は関わる必要がなく，ボランティアから学校に参加者の報告をもらうだけでよかった。たくさんではないが，ここが「第三の居場所」だと感じてくれる子どもたちもいました。おまけということで，未来大学の先生から授業で未来大学のことをやってくれないかという相談があったので，学生たちが中学校に VR の実験をしにきて，生徒たちは AI に触れるという体験ができ，未来大の学生たちには卒論などの参考になった。このように，ニーズをつなぐということだけで，別に大きいことすることは必要ないと思います。学校ごとに本当に状況は違うので，イベントを起こそうという意味でなくて，何か困っていることないですかという御用聞きでいいと思います。先ほど，一番は横の繋がりって言いましたけど，実は聞いてみると企業の方とか，高校，大学，町会，包括など，学校と連携した事業をしたい人たちがいる。そのあたりの気持ちをぜひ聞いてあ

げていただければなと思います。ただ，義務のイベントにしてしまうと，いずれは負担になるので，そのあたりを本音で言い合いながら，やっていきたいなと思っています。

最後に，校長時代に考えていたことなのですが，亀田中学校のように中庭を四方囲まれた学校はあまりないので，草はすぐ伸びるし，敷地も広いので，木まで手が回らない。そういったところを，先ほどの補い合うという点で，木がものすごい好きだという人に来てもらってきれいにして公園みたいにしてもらえたらいいなと考えてたんですけど，コロナもあって難しかったというのが本音です。そういうことで，何か加えていくんじゃなくて，補い合うというリズムをぜひ皆さんの中で作っていっていただければと思います。

（事務局）

ありがとうございました。

（事務局）

最後に，本日ご欠席の北中・北日吉小　齊藤委員，北星小　梶原委員　の活動事例について，担当の石川から代わりに発表させていただきます。

（石川主任主事）

では，私から，本日欠席の齊藤委員と梶原委員の活動について，代わりに発表させていただきます。

はじめに，北中・北日吉小担当の齊藤委員が北中で実施した防災教育の講義についてお話させていただきます。この事業は，本年３月１日に特別授業「防災について考える時間」として北中２年生に対して実施したものです。

齊藤委員は，防災アドバイザーとしての活動や，ご自身のお仕事で培った地形に関する専門知識を活用し，地質や土砂災害の仕組みに加え，日本ではなぜ地震や火山活動が活発なのか，どのような地形の場所で災害が起こりやすいのかなど，ご説明くださいました。

今回は北中での授業ということで，地図で見ると，北中の北部が山に囲まれていることから，大雨や地震など，避難準備，避難勧告，あるいは避難指示などが発令されるような災害発生の危険度が高くなった場合，どのように自分や家族の安全を確保すればよいか，注意すべき点をわかりやすく，かつ自分自身に置き換えて生徒自身が考えられるようなお話をして，生徒たちの防災意識を高めてくれました。

私も授業を見学に行きましたが，その時に見た地すべりの映像はとても印象に残っています。生徒たちからの感想でも，この映像が衝撃的だったという声が多かったそうです。実際に起こりうる身近な災害だと生徒たちがとらえられたことで，地すべり

の要因などについて理解が高まったとのことでした。

説明の後は，体験学習として液状化現象の発生メカニズムを知るための実験を行いました。水槽に砂利や建物の模型を設置して町を再現し，生徒たちが机をたたいて地震を起こし，水槽内に液状化現象を発生させるという実験で，生徒が机をたたき続けることで，どんどん砂利が町を飲み込んでいく様子をカメラで映し出し，液状化現象のメカニズムを確認しました。その様子は，先ほどお話しした映像と同様，模型とはいえ，町一つがなくなるのはこういうことかということをしっかりと認識させてくれる内容でした。

皆さんの中にも防災に興味がある方が多いかと思いますので，ぜひ今度齊藤委員に直接，どんなお話しをされたか伺っていただければと思います。専門的な内容であるのにとてもわかりやすく，理科の授業としても防災授業としても非常にためになる内容でした。

続きまして，北星小担当の梶原委員の活動を発表します。

梶原委員が実施した事業は，「地域交流　遊んで食べよう IN 北星小学校」です。この事業は，昨年１２月２６日の冬休み初日にあったサポート教室終了後，学校全体を使って１日がかりで取り組んだ事業になります。

当日は，北星小学校児童３８名と地域のボランティア，保護者など計６２名が参加しました。当日は，サポート教室で宿題やワークなどで勉強し，その後，体育館でカーリンコンというカーリングに似た競技を，大人も混ざって楽しみました。このカーリンコンという競技について，北星小学校の校区内の町会にある函館カーリンコン協会がルールの説明をしたり，審判をしたりと活躍しておりました。

その後は，プレイルームに移動し，今度はかるたを使って防災や SDGs について，遊びながら学びを深めました。このとき，包括支援センターの方々や地域住民の方々が札を読み上げる役を担ってくれていました。

その間，町会の方々が協力して家庭科室で昼食のカレーライスの準備をし，配膳の際には，PTA の保護者たちが手伝い，うまく役割を分担し，活動されていました。おかげで，カレーライスはおかわりが続出し，みごとに完食しました。食事の班も地域住民が数名いる形で構成されており，おいしそうに食べている子どもたちを見て，ご協力いただいた方々も笑顔になって素敵な交流が生まれていました。そこから，コミュニケーションを図り，地域，学校，保護者が一体となり，遊びや食事をともにする中で児童が異学年や大人とのかかわり，地域社会とのつながりをより一層深めることができました。また，ともに遊んだり食事をすることを通して，全体で楽しさを感じながら，地域，学校，保護者の三者で子どもたちを育て，見守る目が常にあるということなど，再確認することができました。

今後の活動としましては，児童数が減少していく中で，学校が閉鎖的にならないよう，地域と学校の連帯を深める活動を行っていくうえで，連帯の体制を整えるための

基盤づくりの重要性を感じているとのことで，学校運営協議会や教育活動等に，地域の人材を活かし，活発に協議している場を増やしたいと考えているとのことでした。

梶原委員の活動で印象的だったのは，地域と保護者，子どもたち一人一人が全員参加者という意識を持って自分の役割を果たしていたという点でした。この内容につきましても，ぜひ今度梶原委員に直接，お話しを伺っていただければと思います。

（事務局）

以上で活動発表を終了いたします。皆さま，ご多忙の中，ご準備いただきありがとうございました。では，工藤座長から総括をお願いします。

（工藤座長）

色々な発表ありがとうございました。今日この会を通じて，改めてこの CS が地域と学校で協力して子どもたちを育てる・豊かな心を養っていくという視点でできてきたもので，さらにその CS の中での地域コーディネーターの役割について再確認することができました。この地域コーディネーターの業務を進める上で大切なことは，それぞれ学校・地域の事情や特性が違うので，学校・地域に足を運びながら，その特性を理解した上で，何をどういうふうにつなげていくのかというところではないかと思います。学校全体，子どもたち全体に関わる活動など，その学校ごとによって違うのではないかと思いますが，そういうところをうまくコーディネートしながら，地域・学校がますます活性化していくような環境を今から作っていかなければならないと感じています。そして，地域学校協働活動連絡会議のような機会を通して，他の地域や学校での活動を参考にさせていただきながら，自分の活動にはどうあてはめられるかなど考え，交流を深めていけたらいいのではないかと思っています。地域コーディネーターとして横の連携を深めながら，函館市の CS 活動をさらに発展させていっていただければありがたいなと思います。今日は本当にありがとうございました。

では，事務局にお戻しします。

５　閉会

（事務局）

工藤座長，ありがとうございました。最後に，教育政策推進室長の金野から一言ご挨拶させていただきます。

（金野教育政策推進室長）

本日は長い時間，ありがとうございました。今日の発表を聞きまして，改めてこの場を借りて，色々取り組んでいただいていますこと感謝申し上げます。ありがとうございます。今回新たに委員に就任された方々も，今日の発表を参考にしなが

ら，また活動される中で困ったことがありましたら，遠慮なさらず，事務局の方へ連絡していただければと思います。

冒頭に課長からも話がありましたが，学校と教員の働き方改革について，最近国から来る文書にもやはり学校と保護者・地域との連携協働というキーワードが非常に頻繁に出てくるようになりました。この背景には，人口減ということで子どもの数が減ってますけれども，先生の数も減っているということがあるかと思われます。函館市も皆さんご存じのように，人口が急激に減ってきているんですが，一方で，このコミュニティ・スクールの設置が１００％と進んでいるまちです。そうした中で，地域の子どもたちに元気に過ごしてもらえるように何ができるのか，子どもたちが元気があるということは学校も活力ある学校となるということに繋がっていくと思いますので，今後ますます皆様のお力をお借りして，元気な子どもたち，元気な学校，そしてそれが活力あるまちづくりにもつながっていくというような，ひとつひとつの積み重ねかなと考えておりますので，また引き続き，皆様のお力をお借りしたいと思っておりますので，どうぞよろしくお願いします。今日はありがとうございました。

（事務局）

以上をもちまして，令和６年度(2024 年度)第１回函館市地域学校協働活動連絡会議を終了いたします。本日はありがとうございました。